

羅 針 盤			方 策		点検・評価		達成度		達成状況のまとめ及び次年度の課題		学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	総合					
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は1・2年生が85%以上、3年生が90%以上である。	・生徒及び教職員間でスクールポリシーを共有し、行事等をおおして大規模校・共学校としての良さや本校の特長を生徒に伝えるとともに主体的な取り組みによりエージェンシーを高める。		A	B	A		・3学年生徒アンケートでは目標に届かなかったが、他の学年では目標に到達している。今年度から校長のリーダーシップにより「東大合格プロジェクト」を開始した。このアンケート結果は、これまでとの違和感を感じることなく、プロジェクトがスムーズに生徒たちに受け入れられていることと証明とも言える。 ・教員・保護者・生徒のいずれにおいても90%を超える高い評価を得ている。部活動にも意欲的に取り組み、今年度は文化祭を実施し、来場者数は約4,000名に達するなど、活気に満ちた学校生活を送ることができた。これは教員・生徒・保護者が一体となって努力してきた成果であり、次年度以降もこの良い流れを継続していきたい。 ・生徒の達成度に関しては、73.4%であり、昨年度よりも6.1ポイント下降した。学年別では、1学年が76.3%、2学年が68.5%、3学年が75.0%であった。2学年の本研究での評価が低い要因を分析する必要がある。教職員の達成度は、73.1%であり、昨年度よりも7.9ポイント下降した。職員間・職員生徒間の対話を増やしたり、年間計画の適切な設定を次年度は意識したい。探究の活動に関わる方策や資料のマニュアル化・データベース化を推進したが、適切な活用まで至らない点も課題と考える。	・探究については、課題に対して、なぜそれに取り組んだか、どのようなプロセスで取り組んだかを評価基準としてはどうか、結果的に、学力だけではなく高い人間性の育成につながるかと考えられる。 ・市内に新しくできた広域通信制高校は、地域活動にいろいろ参加している。桐高も地域社会とのつながりを持っていくと面白いのではないかと。 ・全生徒を対象に探究活動を継続・進化させていくことは大変な努力を伴うものと推察されるが、東大合格プロジェクトと並び桐生高校の特色ある教育活動として、今後さらに意義あるものへと発展させていきたい。難関大への合格者・志願者の増加につながる网络的取り組みとしても期待している。 ・SSHに関する項目について、生徒及び先生においても達成度が低いのが気になる。そもそもSSHとは、「先進的な理数系教育を通じた国際的な科学技術人材の育成」が目的であり、そのためにどのような取り組みをしていけばよいのかを、他校等の取り組みなどを参考にしながら、再度内容を検討し直す必要があると思われる。探求の課題作成においても、生活に密着した身近な課題、例えばエネルギー問題、環境汚染、高齢化社会対応等について、グループワークを行い、より身近にある問題にフォーカスを当てることで、より探求心が増すような課題設定が良いのではないかと思う。学生のやる気向上には、自分たちに関連のあることを課題とすると良いのではないかと考えた。		
		②部活動や特別活動に主体的に取り組み、充実感を持っている生徒が75%以上である。	・部活動や特別活動を通して、人間力が向上できるように主体的な活動を促していく。		A	A	A					
		③SSHを含む探究の活動について、成果があがっていると評価する教員が75%以上である。また、充実感を持って取り組んでいる生徒が75%以上である。	・同学年の職員のみならず異学年・同領域の職員間で共有・相談できる場を設定し、生徒の活動を支援する体制を整える。またデータベース化した資料を活用し、生徒の探究活動を支援するとともに、発表会やSSHの諸行事の目的や様子、成果を校内外へ発信し、探究・SSHの取組の意義や有用性を周知する。		C	C	C					
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか	④授業を工夫するなどして、生徒の実態に応じた指導を行っている教員が90%以上である。	・授業研修(年2回以上)により、指導力及び生徒理解力の向上を図る。 ・模試結果等の分析を通して、生徒の客観的な実態把握に努める。		B	A	A		・「東大合格プロジェクト」の一環として授業改善も進めている。難関大入試に対応できる思考力の育成に重点を置き、各教員が授業の工夫をしている。教職員と保護者アンケートでは昨年度より良い結果となったが、生徒アンケートでは昨年度を下回っている。生徒に達成感や成就感を実感させられるさらなる工夫が必要である。 ・アンケートは微増ではあるものの昨年度より良い結果となった。各学年の模試結果を見ると、過年度を上回る教科が多い。いずれの結果も前述の授業の工夫の成果と考えられる。また、進路指導部を中心とした高いレベルの意識付けの取り組みが、生徒の授業への意欲を高めていると考える。	・東大合格プロジェクトに対しては、迅速かつ生徒が興味を持つように取り組んでいる。優秀な中学生をどれだけ多く集められるかが課題であるが、わかりやすい取り組みである。また、学校全体に明るく前向きなイメージを付加する意義ある取り組みであると評価する。 ・教育課程の変更など改革に向けた取組がみられ、成果を期待したい。		
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤教科学力が向上したと感じる生徒が70%以上である。	・客観的に自己の学力の伸長をはかるため、模擬試験実施前中期的な目標を立てさせ、模擬試験(偏差値・得点率・全国順位)などの伸びを把握させる。 ・難関大合格プロジェクト(仮称)をスタートさせ、上位者の成就感や達成感を高める工夫をする。		A	A	A				
	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥学級担任による個人面談を、年3回以上実施している。	・生徒理解を深めるため、定期的面談週間だけでなく、必要に応じて個人面談を実施する。		B	B	B				・必要に応じた個人面談の実施など、教員が日頃から積極的な生徒との対話を重ねておられること、またいじめ防止についても100%の意識をもって生徒の状況把握に努められていることに大きな安心感を覚える。 ・SNSの取り扱いや情報リテラシー教育、情報モラルだけではなく、情報の正誤の判断ができるようになる指導もぜひお願いしたい。 ・校内における暴力の動画がSNSで拡散され問題になっている。スマホなども含めた情報モラル教育は重要であり、今後も継続的な指導をお願いしたい。 ・この部分は、B評価が多いが、外から見ているとそれほど悪いようには感じられない。校内では挨拶をしてもらえるし、生徒の顔を見ていると下を向いている子も少なく、みんなしっかり前を向いて登校していると感じる。ただ、部室等での盗難案件の話も聞いたりすることがあるので、そのあたりのモラルについて、指導を徹底していただければと思う。	
⑦生徒に対して、挨拶、服装、交通マナー等についての指導を月1回以上行う。		・規範意識の向上を図るため登校時指導や7-アップ運動、日常生活の中で適宜指導していく。		B	B	B						
⑧本校は「いじめ防止活動」に取り組んでいると評価している生徒が、80%以上である。		・いじめ防止活動を計画に基づいて生徒会を中心に実施し、学校行事やあいさつ運動等の中で呼びかけていく。さらにいろいろな機会を捉えて啓発を促していく。		B	B	B						
5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨1日あたりの欠席、遅刻、早退の合計人数は全生徒数の3%以内である。	・長期欠席等を引き起こさないよう、教育相談体制の充実に取り組んでいく。外部機関との連携も考えて行く。		B	B	B		・生徒や保護者の多くが、健康面に配慮し規則正しい生活を心がけている様子がうかがえる。一方で、コロナ禍以降、学年によっては欠席率が3%を超える日が増加している現状も見られる。教育相談体制については、校内での連携が進み充実させてきているが、対応すべき課題はより複雑化・多様化している。今後は、外部機関との連携も視野に入れ、継続的かつ組織的に支援できる体制の構築を進めていきたい。 ・数値上は大きな問題は見られないものの、学校への問い合わせが寄せられることや、校内においてルールを十分に守れていない生徒が見受けられる場面もある。今後も生徒会や教員による啓発活動を継続し、規範意識の向上に向けた指導を進めていきたい。			
		⑩ルールを守り、規則正しい学校生活を送っていると自己評価している生徒が80%以上である。	・規範や健康意識への向上を図るため、生徒会からの呼びかけや集会等での注意喚起を行う。		B	A	B					
		⑪キャリア教育や進路学習会等において、進路意識が高まったと評価している生徒が80%以上である。	・学年集会・進路学習会を行う際、何を意図するか目的を明確にし、生徒や保護者が必要とする情報を適切に公開するよう努める。		B	A	A					
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫進路ニュース・進路だより等で、必要な情報が得られていると評価している生徒が、80%以上である。	・進路ニュース・進路の手引きの内容を精査し、変化する大学入試の情報も加味し生徒・保護者が必要な情報を提供する。進路だよりを学期1～2回程度発行し、生徒の進路に関する意欲を高め、進路行事などに積極的に取り組む基礎をつくる。		A	A	A		・進路学習会や学年集会、進路資料の提供などで、キャリアに対する意識が高まったと回答した生徒が87.4%と目標値を大きく超えた。大学入試だけでなく大学卒業後のキャリア形成も見据え、さらに一歩踏み込んだ進路行事を設定したい。 ・進路ニュースは年3回(5月、7月、11月)に発行し学年と時期がタイムリーな記事を掲載するよう心掛けている。生徒の87.0%から好評価を得ているが、さらに内容を精査し時宜に見合った情報の提供に努めていきたい。 ・「進路意識の醸成」を目的に全体、学年の進路行事、情報提供を行った結果生徒の82.7%が進路実現に向け積極的に取り組んでいると回答した。意欲的に取り組んでいる生徒がどのような情報を欲しているか、またさらに生徒の進路意欲をかきたてるためにどのような仕掛けが必要か、さらに工夫が必要である。			
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬自己の生き方と職業との関連を意識し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	・職業研究・大学研究を自主的に進められるような環境を整備する。低学年のうちから進路指導部主導の進路学習を組織的に進め、本校の進路指導のスタイルを確立する。		B	A	A				
			⑭Webページによるタイムリーかつ魅力的な情報発信に努め、週1回以上の更新を行い、トピックの追加を行う。	・内容の充実と更新頻度の向上のため、行事を主催した分掌と記事の分担の見直し、円滑な運営に向けた体制づくりを行う。		B	B	B				
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑮在校生保護者及び中学生を対象とした学校公開等を年10回以上実施している。	・文化祭、授業公開、探究発表会公開、中学生対象学校説明会・部活動公開などをとおして本校の魅力を生徒に発信し続ける。		A	B	A		・文化祭では、生徒とPTAが話す機会がなかった。生徒がPTAに何を協力してほしいのか、ということがPTAに伝われば、PTAのかかわり方も違ってくる。保護者も積極的に関わってくれる人が多いので、役立ててほしい。 ・新聞記事の資料から積極的に学校の様子を発信していることがわかる。今後も継続してほしい。 ・SNS等を利用した情報発信については、桐高のHPを見た感じでは、きちんと情報発信していると思う。更新もきちんとされており、あまり過度に情報を出しすぎないよう、きちんと吟味してからお知らせしていくほうが良いと思う。PTA新聞の発行頻度は、十分だと思う。新聞で広報する前に、HP上で情報発信をしていたら、十分だと思う。			
		⑯PTA総会、各学年保護者会などの参加率は、全生徒数の50%以上である。配信されるPTA新聞の「見ました」の割合が全生徒数の80%以上である。	・保護者向け行事の情報の発信については、保護者の周知度を高めるため、遅くとも一ヶ月前に連絡をする。配信版のPTA新聞については、学校行事の様子がわかる写真を盛り込み迅速な配信を心がける。		B	B	B					
		⑰スタディサプリや教育プラットフォーム(ClassiやG Workspace)等を用いた課題指示又は配信を実施している教員が90%以上である。	・入学時や年度初めのオリエンテーション等において、ICTの効果的活用に向けた生徒への指導を適切に行うとともに、職員へのICT活用を通じた授業改善について情報提供を行っていく。		B	B	B					
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱会議で配付される紙媒体資料は必要最小限であると認識している教員が95%以上である。	・教務部と連携し、事前に会議資料をデータでまとめ、全職員が安全に閲覧できる環境を整える。あわせて、情報部担当職員の負担軽減のための方策を立てる。		C	B	B		・今後、生成AIは様々な分野で活用されると思われる。効果的な使い方に関する指導が必要になってくる。 ・電子化により、配布方法の簡素化や紙削減などにつながるが、やはり重要な内容の書類は紙媒体のほうが良い場合もある。PDF等では見逃しが多くなると思われる。重要な書類には赤字を多く利用するなど、特記する部分はより強調するなどの工夫をし、配布すると良い。授業もIT活用などを利用して行う場合、穴埋め形式で実施すると学生に内容がインプットされやすくなるので、文系の授業などはそのような形式も良いと思う。			
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。										